

奈良県内における CRP の超低濃度域のサーベイ結果

©猪田 猛久¹⁾、高橋 秀一¹⁾、倉田 主税²⁾
社会福祉法人恩賜財団 済生会 中和病院¹⁾、奈良県立医科大学附属病院²⁾

近年 CRP の超低濃度域は動脈硬化等の指標として相次いで報告されている。一方 CRP の測定は低濃度域から高濃度域まで測定可能となっているが超低濃度域のサーベイについては一般的には実施されていない。2021 年に奈良県で超低濃度域のサーベイを実施し、知見を得たので報告する。

【方法】 試料はプール血清を用い測定値の目標は 0.5 mg/dL (試料 1) および 0.1 mg/dL (試料 2) を目標に作成し、企業 4 社を含む奈良県内 48 施設でサーベイを実施した。

【結果および考察】 試料 1 では平均 0.38 mg/dL、SD 0.027、CV 7.0(%)、最小値 0.3 mg/dL、最大値 0.5 mg/dL ± 3 SD を外れた施設は 1 施設であった。よく実施される濃度の試料 1 では比較的によく収束していると思われた。一方試料 2 では平均 0.108 mg/dL、SD 0.0128、CV 11.8(%)、最小値 0.08 mg/dL、最大値 0.14 mg/dL ± 3 SD を外れた施設は 1 施設も見られなかった。試料 2 のサーベイ結果の施設間差を動脈硬化等の超低濃度域の指標から見ても平均 0.11 mg/dL を目標値とすると ± 0.03 mg/dL 以内に全施設が入っており妥当な収束状況だと思われた。これは 0 濃度および

0 に次ぐ標準液 (およそ 0.2 mg/dL) の再現性の向上や企業間の値付けの差が小さい事が原因と考えられた。CRP の超低濃度域では 0.03 mg/dL や 0.04 mg/dL の差が論議されている状況で日臨技をはじめ多くの地域で超低濃度域のサーベイを実施していない。超低濃度域の数値や重要性だけが取り出されている状況で施設間差がどの程度なのか知るためにも超低濃度域のサーベイを実施するべきであると思われる。

【まとめ】奈良県で CRP の超低濃度域でのサーベイを実施したが、その結果はほぼ収束していたと考えられた。超低濃度域の重要性は増しており、超低濃度域のメーカー間差や施設間差を知るためにも今後多くの地域で超低濃度域のサーベイの実施が必要と思われる。

連絡先 07444-43-5001